

KEIWA
COLLEGE REPORT

第 58 号

April 2009

敬和カレッジ・レポート

発行／敬和学園大学後援会
敬和学園大学広報委員会



鈴木佳秀学長 就任

鈴木佳秀学長インタビュー 「誰かのために生きる」

それぞれの未来へ 「第15回 卒業式・謝恩会」

卒業生からのメッセージ／新しいカリキュラムのご紹介

卒業論文のご紹介／教職課程・社会福祉士課程の実習報告

強化スポーツ バドミントン部、アーチェリー部、テニス部のご紹介

学内合同企業説明会のご報告／生涯学習プログラムのご案内

2009

KEIWA COLLEGE REPORT

April 2009

発行所／敬和学園大学 T957-8585 新発田市富塚1270番地
印刷所／オリオン印刷機 T950-0963 新潟市中央区南出来島1-19-1 Tel.025-283-2151

KEIWA チャレンジ学生ファイル(25)

英語文化コミュニケーション学科卒業

阿部 由紀恵

『奏楽と出会い』



卒業式にて

私が奏楽を始めたのは、敬和学園高等学校に入学したのがきっかけです。高校には立派なパイプオルガンがあり、もともとピアノが趣味だった私にとって、このパイプオルガンを弾くということは、夢のようでした。同時にクリスチヤンでない私が、奏楽者という礼拝の大重要な役を務めていいものかという戸惑いも最初はありました。しかし、毎朝の礼拝で次々と出会う讃美歌は、とてもきれいなメロディで、私の奏楽に対する想いをどんどん真剣にさせました。

私がよく弾いた曲に、ゴスペルの“AS THE DEER”があります。メロディが美しく、お気に入りの曲です。音と音を繋げてきれいに聞こえるように、毎回十分な練習をしてきました。当番の数も多く大変だなと思うこともましたが、聴いてくれた人から「今日の曲もよかったです」など感想をもらえるのがとてもうれしく、ここまで続ける原動力となっていました。さまざまな人や曲との出会いから得たものが多く、続けてきて本当によかったです。

人前で弾くことは簡単にできることではありません。大学に入ってすぐに「奏楽をやらないか？」と誘ってくださり、楽譜の準備やスケジュールの調整をしてくれた職員の皆さん、専門でもないのに練習をみてくださったピアノの先生、こんな歳までピアノを続けさせてくれた両親にとても感謝しています。高校から大学まで7年間も奏楽者を務めることができ、最高の学生生活になりました。



敬和学園大学 の最新情報
敬和学園大学 検索

www.keiwa-c.ac.jp



ケタ付け



●聖書との出会い

「まず、学長の経歴をお聞かせください。熊本で生まれ、父の仕事の関係で転々としました。子どものころは工学生でした。本田技研が自転車に小さなエンジンをつけたものを開発していました。オートバイの前身ですが、日がなそれを眺めていました。そういうことをやりたかったのです。

高校時代、福岡で被爆者の牧師に出会いました。両手の肘から先がやけで覆われたこの方が、ある時、広島での被爆の体験を軸に、神の愛について説教されました。

原爆で家族を失ったにもかかわらず、「神は愛なり」と語る牧師に仰天しました。とても理解できませんでした。だから彼の話を惹きつけられたというか。この衝撃の体験から、この牧師を理解するにはどう

鈴木佳秀学長インタビュー

「誰かのために生きる」

すればよいのかを考えました。新約聖書から言葉を引いていたので、そこに鍵があるかもしれませんと思い、大学浪人時代は旧・新約聖書を何遍も読みました。そのころ読んでいたのが、聖書と内村鑑三（無教会派を始めた伝道者で思想家）でした。

「旧約学を研究対象にされたいきさつは?」

旧約聖書をやるきっかけはマックス・ウエーバー（ドイツの社会学者）の『古代ユダヤ教』との出会いでした。もとが理系でしたから、文芸評論なんかは信頼できなかつたわけです。それがウエーバーを読んで、社会科学には法則性があるということを発見しました。それまでカール・バルト（ドイツの神学者）などの神学書は読んでいましたが、どちらかと言うと、それは聖書を守る立場からの研究でした。新約は初めて答えが与えられているような気がしましたが、旧約は答えがなくて面白いと思いました。そのことと「ヨブ記」と、そして例の牧師が重なったのです。

そのころ、故闇根正雄先生（元東京教育大学教授）によるヘブライ語の夜間講座に行きました。内村の最後の愛弟子といふことは知っていたのですが、不思議な出会いでした。新井明前学長も闇根先生のお弟子さんで、新井先生と初めてお会いしたの



新井明前学長と奏楽者の皆さん

敬和学園大学では、人間形成の場として、毎週金曜日のⅡ限目を「チャペル・アッセンブリ・アワー」とし、学生と教職員が共に礼拝と講話の時間を守っています。毎回礼拝の時には、参加する学生と教職員とで讃美歌を歌います。新井明前学長から、退任にあたって、この讃美歌の伴奏に使用する電子ピアノを寄贈していただきました。

4月からまた始まる礼拝の時間には、新しく入学する学生たちの心に、新しいピアノの音色が響きわたることでしょう。



は、闇根先生の伝道五〇周年の講演会の時でした。

学生時代は全共闘時代で大学四年間に五回学ストがありました。まともな教育を受けていないんですよ。勉強は独学で、しかも喫茶店でやりました。大学院時代も三年からはずれていたので、予備校の講師になるか、教員免許を取ろうと思っていましたが、中川秀恭先生のもとで非常勤の助手をしていました。昼に一緒に食事をするという役目でした。「君、どうするつもり?」と聞かれ、予備校の講師になるつもりだと言つたら、お弁当を脇に置いて「学問をあきらめちゃいけない」と懇々と説教されました。恩人の一人です。「私にそんなことができるのか」と思つていたら、別の先生から留学を勧められました。指導を受けたいと思ったドイツ人のクニーリム先生がたまたまカリフォルニア州のクレアモント大学院で教えておられ、手紙を書いたのです。が、数ヶ月返事がこなかつたんですね。あきらめたところに返事がきて、「実はハンドブルク大学に戻る予定だったが、クレアモントに留まることがなつたので、ぜひ来なさい」と言ってくれました。一九七六

もくじ

鈴木学長インタビュー「誰かのために生きる」…	1	学内合同企業説明会のご報告 ……	8
それぞれの未来へ「卒業式・謝恩会」…	4	新井前学長さよなら講演会のご報告 ……	10
卒業準備委員会より ……	4	阿賀北ロマン賞授賞式のご報告 ……	10
卒業生からのメッセージ ……	5	留学生交流餅つき大会のご報告 ……	10
新しいカリキュラムのご紹介 ……	6	生涯学習プログラムのご案内 ……	11
教職課程実習のご報告 ……	6	アリゾナ留学プログラムがスタート ……	11
四年間の集大成 卒業論文のご紹介 ……	7	同窓会リレー・エッセイ⑩ 萩橋智美 ……	12
社会福祉士養成課程実習のご報告 ……	7	寄付者ご芳名 ……	12
強化スポーツクラブの紹介		学事予告 ……	12
バドミントン部	8	キャンパス日誌 ……	13
アーチェリー部	9		
硬式テニス部	9		

<表紙写真>第15回卒業式 答辞

留学生としては初めて、劉莉穎さんが答辞を述べました(p.4)

CLOSE UP

A portrait of a man with glasses and a suit, smiling, with a cup of coffee on a table in front of him.



●社会を支える「人」づくり

教育

重なつてはいますが、ぴったり一致するわけではないのです。日本は、平均的知的レベルは高いのですが、アメリカは個人差が大きい。アメリカの大学では音楽のト音記号の書き方から教えていたりするのです。ABCから教えて、しかしそれが積み重なつてすごい人が生まれたりするわけです。機会均等がアメリカの民主主義の考え方です。彼らは学生たちをどうやって平等に扱うか

を常に考え、機会均等を制度的に実現しようとします。それでも堕落するなら自己責任ということです。それがアメリカのリベラルアーツ教育です。日本は、日本型のリベラルアーツ教育をやればよいわけです。アメリカのような潜在能力を引き出すたちの課題で教育をどうやるかがわたし

—新潟は美学志向が高い所です。どうすれば教養教育を理解してもらえるでしょうか。

人づくりに命をかければ確実に生き残れると考えています。どういう人間を育てるか、です。そこにはいささかも迷いがない。敬和が教養教育に一生懸命になつているところに希望があると思います。人間形成をしなければ、介護の世界でもよい仕事はできない。すれつからしの介護人だつている。プロはいる。けれども輝きのないプロもいっぽいいます。「人」が現場を支えている



【そこがよいんじやない】と話したこと

の
で
す。

●誰かのために生きる
——先生の教育観を教えてください。

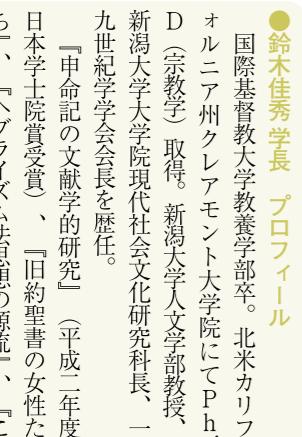
「何かのために生きる」ではなく、「誰かのために生きなさい」が私の教育観です。教えてくれたのはマザー・テレサでした。人は何かのために生きやすいのです。財産とか趣味とか。しかし誰かのために生きるには必ず自己犠牲が伴います。「誰かのために生きる」という道を選択するならば、自分だけの世界に閉じこもることはなくなります。常にその人のことを思い、配慮し、その人にとって何がベストなのかを考え始めるからです。そのための知恵や知識が必要となります。そうした生き方を共有できるのは、教室だけではなく、雑談や飲み会だったりと、実際の日常生活の場が教育の実践の場となり得ます。

——どうもありがとうございました。

(聞き手
広報)

(聞き手 広報委員会)

国際基督教大学教養学部卒。北美カリブ・オルニア州クレアモント大学院にて Ph.D. (宗教学) 取得。新潟大学人文学部教授、新潟大学大学院現代社会文化研究科長、一九世紀学学会会長を歴任。



CLOSE UP

A portrait of Kenjiro Kurokawa, a man in a dark suit and glasses, sitting at a desk. He is looking slightly to his left. In front of him on the desk is a small white cup and saucer. The background is plain and light-colored.



●「カタ」を学ぶ

「そこから新潟大学に着任されたのですね。新潟大学で迎えてくれたのが故安藤弘^{ひろ}先生（古代ギリシャ史専門）。本学開学当初の一般教育主任）でした。就職の条件が一緒にホメロスを読むことでした。「学生の目線で講義しなさい。あとは何をやつてもよい。専門を教えてもよい」と言ってくださいました。最初は本当に自由で楽しかった。

授業は試行錯誤でしたね。「オリエント史」を講じてくれと言われたのですが、通史をやつたことがなかったので、神話から通史、考古学とやっていきました。十数種類の講義ノートを作り、一冊本を翻訳しました。それにホメロスもね。それが全部その後の論文の肥やしとなりました。

——読書会もやつていたそうですが。

それまでの学生生活を全部償う気持ちで、教育に情熱をかけました。学生の要望に応えて、教養部の一年生と一緒にヘーゲルやウェーバーなどを読みました。歴史の授業に飽き足らなかつたのでしきうね。学生は面白がつてくれて、大学時代の思い出になつたようです。

——この時代、様々なプレッシャーで行き詰っている若者たちに、哲学という学問が力になつてくれると思ひます。

教養教育が大学教育を決めると思ひます。教養はこれまで教えるものとしてしか捉えられていませんでした。フランス、ドイツなど各国で教養教育をどうしているかを調べ、最終的に「カタ」を学んでもらうといふことが一番大事だと思うに至りました。

「カタ」は知識ではなく、^{しきけ}軽を含め、人付き合いにもすべて当てはまるものです。歌舞伎役者はまず「カタ」を学ぶ。それを発展させて舞台で演じると聞いて、教養教育も同じじゃないかと考えました。読書会で一緒に学ぶ場合、どうしても自分の専門で攻めようとするくせがありましたが、聴くして苦労している姿を学生に見てもらう。一緒に学ぶ。寺子屋式に教えるのではなく、姿勢を学生たちから学びました。研究者として苦労している姿を学生に見てもらう。



我々の持っている価値観と学生の持ついる価値観を交流させることが大事なのです。スポーツでいえば、サッカーでは個人プレーが光りますが、ラグビーはそうではないです。

中村広報委員

全日本九連覇の松浦進一監督に聞く バドミントンの面白さ

全日本バドミントン選手権ダブルス九連覇、シングルスでも三回優勝、バルセロナオリンピックダブルスでは五位に入賞した松浦進一さんが、三月より敬和学園大学のバドミントン部監督に就任しました。松浦さんにバドミントンの面白さ、そして本学バドミントン部の課題や強化の方向性について伺いました。

――バドミントンを始めたきっかけは?

小学校時代は野球少年でした。それが中学に野球部がなくて、友人に誘われて仕方なしにバドミントン部に入りました。

――その後バドミントン一筋で?

常にやめたいと思いつながら、続けていました。先生が熱心だったし、高校でも地元滋賀県で高校総体や琵琶湖国体がありました。高校総体で後にペアを組むことになる松野さん所属の学校に負けました。大学に行きはなかったのですが、中学の恩師や周りの勧めがあり、それから法政の監督がよく言えば情熱的、悪く言えばしつこくて、高三の暮れに進学を

決めました。結局、高校総体上位の五選手がみな法政に入ったんです。よくけんかもしたし学校の授業もさぼっていた僕が、なぜか練習だけは続けていました。バドミントンをやっていなかつたら、どうなっていたのだろうと思いませんね。バドミントンに救われたと言いますか。

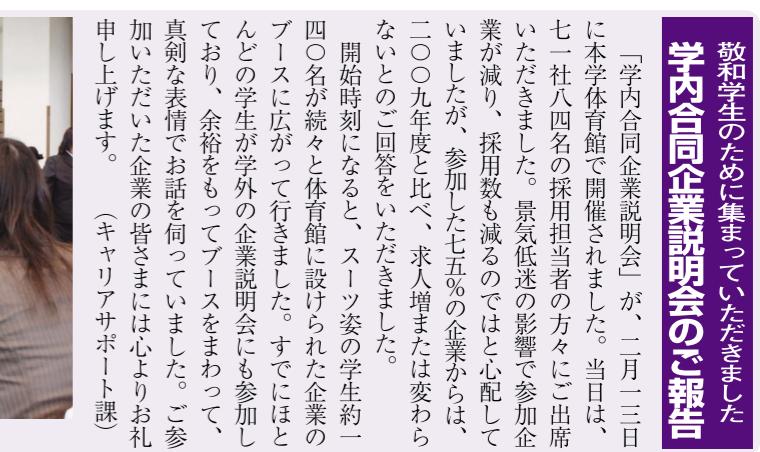
――バドミントンの面白さは?

最初は羽子板感覚でやつて楽しいです。それに、自分の想像以上に体を動かします。上達すると強弱、緩急が面白い。初速は三〇〇～三五〇kmと速いのですが、相手のコートに届く時には一〇〇km以下になります。前後左右の動きと相手との駆け引きも面白いですね。

――本学の武下・藤原組もトキめき新潟国体を目指してがんばっていますが、課題は? 地元が優勝できるといいですね。ラリーポイント制になったので、精神的には大変だと思います。強いペアのまねに走るのではなくて、苦しくなった時にこそ、自分で考えることが大切ですね。対戦相手の状態を考える想像力も必要です。

――今後の抱負をお聞かせください。

武下、藤原のような選手を育てていくことに加えて、敬和学園大学の選手層を厚くして強いチームに育てていきたいですね。



敬和学生のために集まつていただきました 学内合同企業説明会のご報告

「学内合同企業説明会」が、一月二三日に本学体育館で開催されました。当日は、七一社八四名の採用担当者の方々にご出席いただきました。景気低迷の影響で参加企業が減り、採用数も減るのではと心配していましたが、参加した七五%の企業からは、かもしたし学校の授業もさぼっていた僕が、なぜか練習だけは続けていました。

開始時刻になると、スリット姿の学生約四〇名が続々と体育館に設けられた企業のブースに広がって行きました。すでにほとんどの学生が学外の企業説明会にも参加しており、余裕をもつてブースをまわって、真剣な表情でお話を伺っていました。ご参考いただきたい企業の皆さんには心よりお礼申し上げます。（キャリアサポート課）

飛躍を狙うアーチエリー部 国体入賞に照準を合わせて

アーチエリー部監督 夏井 博臣



アーチエリー部は、二〇〇四年の創部以来重ねてきた各種大会での入賞や全国大会出場の実績が認められ、二〇〇八年度より大学からの強化指定を受けました。これにより部をとりまく環境は劇的に変化してきました。私も強化の一環として、世界選手権出場や国体監督としての実績から、アーチエリーを専門的に指導できる監督として配置されました。

従来からあるアーチエリー場もナイター設備を完備し、安全性を高めたものに改裝されました。また、名誉監督にアーチエリーカー競技経験者である株式会社ハードオフコーポレーションの山本善政代表取締役会長兼社長をお迎えました。スポーツ特待生制度の対象競技にも指定され、選手たちの競技に対する意識も大きく変化しています。まさにアーチエリー部は、二〇〇八年から生まれ変わったといえます。

指導体制と施設設備が充実し、今後は、選手の育成と優秀選手の確保に比重を傾けていきます。特に敬和学園高校アーチエリー部との連携した練習を、これまで以上に密に行っていく予定です。

二〇〇九年は、新潟国体の年です。アーチエリー部も国体への出場はもちろん、大会で好成績をあげていくことに照準を合わせて指導をすすめています。

新しい監督を迎えるテニス部 楽しむテニスから勝てるテニスへ

テニス部監督 高松 茂雄



皆さんこんには。私は長い間、高体連テニス専門部に所属して高校生にテニスを指導してきました。今年度四月から縁あって、新しく敬和学園大学のテニス部監督に就任して、学生たちを指導することになりました。よろしくお願いいたします。

テニスは老若男女が生涯を通じて楽しめるスポーツとして、愛好者は急増の一途をたどっています。敬和学園大学も昨年テニスコートを砂入り人工芝コート三面に全面的に改修し、学生諸君も大いにテニスを楽しむことができるようになりました。

また、テニス部の活動も行きやすい環境になり、卒業生でT&Sテニススクールの片山浩之コーチの指導のもと、部員も定期的に集まって練習に励み、実力をつけてきました。

今後の活動の目標としては、部員一人ひとりの競技力の向上はもちろんのことですが、男女とも団体戦に勝てるチームづくりを目標に励んでいきたいと考えています。そのためには、第一に現在より一人でも多くの人から入部してもらうこと。第二は部員全体で活動する日数を今より一日でも多くすること。第三に練習は集中して短時間で効果を上げ、練習のための練習でなく試合に勝つための練習を工夫することです。まずはまとめてお話しします。

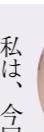
私は、今回の学内合同企業説明会に参加し、学外での合同説明会では味わえない、とても有意義な時間を過ごすことができました。それは、私たち敬和の学生だけが参加でき、しかも、私たちに興味を持つくださっている企業の方々だけがお越しくださいました。よろしくお願いいたします。

多くの学生は、事前配布されていた参加企業のリストをもとに、ある程度訪問する企業を絞り、ブースを回ったと思います。しかし、私が志望する企業のうち二社が、都合悪く欠席されました。私は、志望する企業のリストをもとに、ある程度訪問する企業を絞り、ブースを回ったので、他の業種の企業のブースを訪問することには抵抗がありました。しかし、せっかくの機会ですので、席の空いている企業のブースに行きました。企業の方と一对一で話せる機会というのはなかなかなく、面接試験ではないですが、よい緊張感の中でお話をさせていただきました。

一対一のよいところは、会話ができるところです。学外の合説では、多いところで何十人も一度にブースを訪れます。そうなると、話を聞くだけの状態になります。しかし今回は、理解が難しいことはその場ですぐに質問することができますし、自分をアピールすることもできましたので、参加して本当によかったです。

会話ができる安心感

蓄積文化コミュニケーション学科 翠木 下和貴



私は、今回の学内合同企業説明会に参加し、学外での合同説明会では味わえない、とても有意義な時間を過ごすことができました。それは、私たち敬和の学生だけが参加でき、しかも、私たちに興味を持つくださっている企業の方々だけがお越しくださいました。よろしくお願いいたします。

多くの学生は、事前配布されていた参加企業のリストをもとに、ある程度訪問する企業を絞り、ブースを回ったので、他の業種の企業のブースを訪問することには抵抗がありました。しかし、せっかくの機会ですので、席の空いている企業のブースに行きました。企業の方と一对一で話せる機会というのはなかなかなく、面接試験ではないですが、よい緊張感の中でお話をさせていただきました。

一対一のよいところは、会話ができるところです。学外の合説では、多いところで何十人も一度にブースを訪れます。そうなると、話を聞くだけの状態になります。しかし今回は、理解が難しいことはその場ですぐに質問することができますし、自分をアピールすることもできましたので、参加して本当によかったです。

ご 報 告

地域との連携から得た実り 新井明前学長さよなら講演会

名残を惜しむ市民をはじめとする「新井明前学長さよなら講演会」が三月二〇日、新発田市生涯学習センターで行われました。新井先生は「新発田の六年」と題して、敬和学園大学で過ごされた二〇〇三年からの六年間を振り返り、学園が「地域と連携する大学」として多くの実りを得ることができたことの喜びを語られました。



新発田での6年間を回想

新井先生の着任以来始まった入学生による植樹によって、今やキャンパスは小さな森になりつつあります。敬和学園大学が「教職員・学生の織りなす愛の共同体」として、「神に仕え、人に仕える」人間をはぐくみ、育てる場であることへの思いを深めるひとときとなりました。（宗教部長 大澤）

文学で地域おこし 「阿賀北口マン賞」授賞式報告

第一回「阿賀北口マン賞」授賞式が、三月一日に行われました。

第一部では審査委員長の加藤宗哉先生が「体験することと書くこと」と題して、恩師遠藤周作との交流からエピソードを紹介しながら講演くださいました。第二部では、「越後と文学」と題し、芭蕉（新井明前学長）、良寛（加藤信一新潟大学名誉教授）、會津八一（北嶋藤郷本学名誉教授）という文人たちの描いた越後・阿賀北像を探り、この地域の魅力を掘り起こす試みをシンポジウム形式で行いました。第三部の授賞式では、一七五編の応募作品の中から見事受賞された皆さまの栄誉を称えました。産官学共同のプロジェクトに多くの方々のお力添えと祝福を賜りましたこと、申上げます。（広報委員長 金山）



「阿賀北口マン賞」授賞式の様子

日本のお正月を味わう 留学生交流餅つき大会

恒例の「留学生交流餅つき大会」が一月一九日に開催されました。これは、留学生たちに日本のお正月を味わってもらおうと企画しているものです。

慣れない手つきできねを下ろすと「ドスン！ ドスン！」と威勢のよい音が会場内に鳴り響き、それに合わせて「よいしょ、よいしょ」のかけ声がかかりました。「きねが思つたよりも重くて大変だった」などの感想を言い合しながら、留学生たちはできたお餅をほおばっていました。

敬和学園大学では、中国、韓国、イタリ

ア、スペイン、ロシアから計五二名の留学生が勉強しています。

会場では彼らを支える関係団体の皆さんも、学生たちと一緒に交流を楽しみました。（国際交流係 田邊）



勢いのよい音が響きました

地域の生涯学習をバックアップ 生涯学習プログラムのご案内

敬和学園大学は、学びの機会をキャンパス内外に広げ、大学をより身近な存在として感じていただけるように、今年度もたくさんの公開講座を開催いたします。

今年度の総合テーマは「今の時を生きる」です。私たちの歩んできた道のりを振り返りつつ現在を理解し、人間らしく生き、幸

福和学園大学 「みんなで考える裁判員制度」（新発田市生涯学習センター）
5月28日（木）裁判員制度について
6月 4日（木）舞台『12人の怒れる男たち』の見所
6月11日（木）聖書における裁き
6月18日（木）パネルディスカッション
〔宗教、文学、コミュニケーションの視点から〕

新潟県弁護士会 弁護士
東京芸術座
鈴木 佳秀 学 長
大澤 秀夫 教 授
佐藤 渉 教 授
中村 義実 准教授

※お問合せ 敬和学園大学総務課（Tel. 0254-26-3625、e-mail kcop@keiwa-c.ac.jp）
敬和学園大学 「絵本の愉しみ3」 日本絵本の知られざる優秀期—昭和10年代から30年代にかけて
6月27日（土）、28日（日）絵本の愉しみ3（その1） 吉田 新一 立教大学名誉教授
7月25日（土）、26日（日）絵本の愉しみ3（その2） 吉田 新一 立教大学名誉教授

※お問合せ 敬和学園大学総務課（Tel. 0254-26-3625、e-mail kcop@keiwa-c.ac.jp）
聖籠町 キッズ・カレッジ「夏休み子ども陶芸教室」（聖籠町民会館）
8月 夏休み子ども陶芸教室 趙 晴行 准教授

※お問合せ 聖籠町民会館（Tel. 0254-27-2121）
新潟市北区 「軍事主義とジェンダー：第二次世界大戦と現在」（豊栄地区ふれあいセンター）
9月29日（火）第二次大戦期と現在—恐慌から戦争へ!? 加納実紀代 教授
10月 6日（火）女性雑誌「ナチュラル女性展望」にみるダイバーシティの戦時活動—鏡から前線まで— 桑原ヒサ子 教授
10月13日（火）「レイディーズ・ホームジャーナル」誌のフュージョンを見る戦時アーリカンホームと女性 松崎 洋子 名誉教授
10月20日（火）写真雑誌「ピクチャー・ポスト」を見る戦時下の〈市民〉たち 杉村 伸乃 准教授
10月25日（日）大学見学と模擬授業体験（自由参加）

※お問合せ 新潟市豊栄地区公民館（Tel. 025-387-2014）
その他のイベント
10月17日（土）共生社会学科公開学術講演会
10月25日（日）国際文化学科長杯外国语スピーチコンテスト

※お問合せ 敬和学園大学総務課（Tel. 0254-26-3625、e-mail kcop@keiwa-c.ac.jp）
舞台『12人の怒れる男たち』公演（新発田市民文化会館）
11月21日（土）ブレトーク「日本の裁判員制度と『12人の怒れる男たち』」 藤本 晃嗣 講師
舞台『12人の怒れる男たち』 東京芸術座

※お問合せ 敬和学園大学総務課（Tel. 0254-26-3625、e-mail kcop@keiwa-c.ac.jp）

せな社会を築くために何ができるかを一緒に考えていく講座を実施していくきます。好評をいただきしております講座形式のオープン・カレッジに加え、舞台公演や子ども向けの夏休み教室も開催します。皆さまに身近なテーマや会場を選んでいただき、お気軽にご参加ください。（広報委員会）

アリゾナ留学プログラムがスタート

二年前から留学生を受け入れ交流を続けているアメリカ・アリゾナ州にあるエンブリィ・リドル航空大学への夏期留学プログラムが新しくスタートします。

期間は七月一八日から八月一五日の四週間で、エンブリィ・リドル航空大学の短期留学として参加し、英文法、英作文、英会話コミュニケーション、英語によるアメリカ文化の講座を受けます。週末のファーリドトリップは、グランドキャニオン国立公園のほか四ヶ所を予定。コミュニケーションティア活動または現地の小学校での教育実習体験、希望者には小型セスナ機によるアリゾナの空中散歩もご用意できます。プログラム期間中は、大学内の学生寮に滞在するので安心です。一般の方もご参加いただけますので、お問い合わせください。

（国際交流係 田邊）



グランドキャニオン国立公園

お知らせ



同窓会リレー・エッセイ⑩

二〇〇四年度卒業

高橋 智美

いつの日だったかこんなフレーズを見ました。「いい言葉はいい人生を創る。一度の人生を勇気付けてくれる名言がある」私にとっての名言。それは、「またね」このたった三文字の言葉。

卒業して四年、ひたすら仕事に明け暮れました。壁にぶつかり挫折感を味わう度に大学を訪れました。何を話すわけではなく、ただ会って自信を取り戻したかったから。背中を押し続けてくれ、苦言を呈してくれ、応援してくれた恩師の方々。いつも笑顔で迎えてくれた職員の皆さん。私にとつて大学は自分を取り戻すための場所でした。そしていつも最後には「またね」で送り出してくれました。その度に「また会いに来よう、またがんばろう」、そう思いました。

転機は二〇〇六年の終わり、バングラデシュへのボランティア活動派遣。興味はあったけど、自信はなかった。そんな時も、背中を押してくれたのは大学でした。この活動に参加して本当に「生きている」と実感することの大切さを思い出し、転職を決意。今は母校で働いています。思えば敬和での学びは自分の可能性を見いだす学びでした。失敗を恐れずに物事に取り組むことで新たな光が見える。多くの「またね」に支えられてきた私は、今度は多くの「またね」で後輩たちを支えていこうと思います。

本学にお寄せくださった皆さまのご支援・ご厚意に心より感謝申し上げます。



(敬称略)

一月	二月	三月	四月
二〇〇四組 新井明2 (敬称略)	小池一晃 日本基督教団京都丸太町教会シオン会 日本基督教団高田教会	二〇〇四組 新井明2 日本基督教団京都丸太町教会シオン会 日本基督教団高田教会	八日 履修登録期間（一六日まで） 新入留学生歓迎懇談会 新入留学生歓迎懇談会
二月	三月	四月	五月
一日 創立記念日振替休日 日本語・日本文化研修プログラム（JCLPⅠ） (六月一〇日まで)	一日 社会福祉現場実習（事前実習3） スポーツ大会 献血並行骨髓バンクドナー登録会	一日 社会福祉現場実習（事前実習3） スポーツ大会 献血並行骨髓バンクドナー登録会	一日 創立記念日 新入生オリエンテーション（四日まで） 新入生オリエンテーション（四日まで）
三月	四月	五月	六月
二九日 高校・大学合同研修会 (七月一五日まで)	二七日 社会福祉現場実習（事前実習3） スポーツ大会 献血並行骨髓バンクドナー登録会	二九日 献血並行骨髓バンクドナー登録会 留学生の集い 創立記念日 (七月一五日まで)	二九日 健康診断（七日まで） 新入生歓迎公開学術講演会 新入生歓迎公開学術講演会

次回のカレッジ・レポートの発行は、

七月一日（水）の予定です。

学事予告

寄付者ご芳名

一般
阿彦連、後藤喜恵、
平形義人、市野つくし、
小西良憲、村山国弥、
村上毅、長嶋暁子、
中原忠代、野沢潔、
小畠義夫、尾崎秀一、
坂井情一、佐藤知恵子、
相馬文子、鈴木和夫、
高木博義、高橋登美、
田坂ゆたか、寺田芳徳、
冨井康年・良子、刀禰堯介、
上原幸次郎、山田峯子、
山田トシ子、山上重雄、
山崎武、

キャンパス日誌

2月

- 3日 英語文化コミュニケーション学科 卒業論文発表会
- 4日 教授会
- 5日 社会福祉現場実習2報告会
- 6日 センター試験利用入学試験(1期)合格発表
- 9日 後期集中講義1(～13日)
春期休暇(～3月31日)
センター試験利用入学試験(2期)出願(～2月24日)
一般入学試験(C日程)、
外国人留学生入学試験(2期)出願(～3月5日)
- 13日 学内合同企業説明会
(71社、84名、写真)
- 14日 神田ゼミ「新発田台輪及び獅子舞」調査報告会(新発田学研究センター)
- 16日 後期末追試験(～18日)
KIVサークル 国際ボランティア
(マレーシア、～25日、写真)
- 23日 後期集中講義2(～26日)
- 25日 教授会

3月

- 1日 第1回「阿賀北口マン賞」授賞式
まちの駅よろず「新発田学研究センター」開所二周年記念講演会、シンポジウム
(新発田市生涯学習センター、127名)
- 第1部講演会
「体験することと書くこと
一遠藤周作にまなんだことー」
講師 加藤宗哉 作家・「三田文学」編集長(写真)

- | | |
|-----|---|
| 2月 | 3日 第2部シンポジウム「越後と文学」
シンポジスト(写真)
新井 明 学長
加藤信一 新潟大学名誉教授
北嶋藤郷 敬和学園大学名誉教授
オブザーバー
加藤宗哉 作家・「三田文学」編集長 |
| 2日 | 再試験(～3日)
図書館蔵書点検(～6日) |
| 3日 | センター試験利用入学試験(3期)出願(～13日) |
| 4日 | 中条高校大学見学(36名、写真) |
| 6日 | センター試験利用入学試験(2期)
合格発表 |
| 10日 | 一般入学試験(C日程)
外国人留学生(2期)入学試験 |
| 11日 | 教授会 |
| 12日 | 一般入学試験(C日程)、
外国人留学生(2期)合格発表 |
| 16日 | アーチェリー場完成始射式(60名、写真) |
| 19日 | 第15回卒業式
(聖籠町町民会館、写真) |
| 20日 | 卒業謝恩会
(新潟グランドホテル、191名、写真) |
| 20日 | センター試験利用入学試験
(3期)合格発表 |
| 26日 | 新井明学長さよなら講演会
(新発田市生涯学習センター、216名)
送別会(アーデギャレ・ベルナール、154名) |
| 31日 | 新井明学長退任式、植樹式(写真)
理事会・評議員会
学年わり
社会福祉士国家試験合格発表 |